愛知東邦大学 シラバス

開講年度(Year)	2023年度	開講期(Semester)	前期
授業科目名(Course name)	総合ビジネス基礎		
担当者(Instructors)	舩木 恵一	配当年次(Dividend year)	1
単位数(Credits)	2	必修・選択(Required / selection)	選択

■授業の目的と概要(Course purpose/outline)

この講義では、マクロ環境分析のひとつであるPEST分析の手法を用いて、我が国の経済社会に影響を与えている重要な政策や社会事象の理解を目的として、グローバルな問題や、国際情勢の理解、先端技術が及ぼすビジネスや暮らしへのインパクトなど、大学生として知っておくべき時事的テーマを俯瞰的に学習してゆきます。広く社会全般への見識を深めると同時に、学生自らがこれからこの社会とどう向き合ってゆくべきかを考え、学生時代に何を学ぶべきかという主体性を育み、学士力の基礎となる思考力・判断力・表現力の獲得や強化を目指します。

■授業形態・授業の方法(Class form)

授業形態(Class form)	講義
授業の方法(Class method)	対面方式での講義を実施します。毎回主要なテーマ（問い）を設定し、問いに関する回答や関連する知識、背景となる考え方等をスライドや動画を用いて解説します。学生は毎回課される課題に取り組むことによって、復習：予習を行い、テーマ（問い）に関して深い理解をすすめ、主体的な思考のもとに、自身の意見を表現する力を伸ばします。

■各回のテーマとその内容(Each theme and its contents)

回数(Num)	テーマ(Theme)	内容(Contents)	メディア区分(Media)
第1回	オリエンテーション～学習目的と講義方法の確認	講師略歴紹介、本講義の狙い、学生の到達目標、毎回の講義手順、課題の取組方法、各回のテーマ、成績評価方法を説明します	□
第2回	PEST分析とはどういうものか？　ファルコンの視点（俯瞰）を考える	経営環境分析の目的と様々な手法を紹介し、中長期的視点を獲得するPEST分析について学ぶ	□
第3回	地方創生と少子化対策、日本の抱える構造的問題は何か？　国際競争力が低下した要因は何か？	なぜ日本の経済力が低下したのか。国内の要因としてあげられる東京一極集中と少子化の問題を考察し、日本社会の構造的問題を理解する	□
第4回	ロシアのウクライナ侵攻は何をもたらしたのか？　米中対立など不確実性が増す世界情勢をどう理解すべきか？	東西冷戦終了後の世界の変遷を俯瞰し、中東問題や資源獲得競争の推移、ロシアによるウクライナ侵攻、中国とアメリカの対立構造など、現在の日本を取り巻く地政学的な環境を理解する	□
第5回	地球温暖化を止められるのか？　グリーンテックやアグリテック、フードテックとは何か？　地球規模の最優先課題である脱炭素や食料問題の解決にむけてどういう動きがあるのか？	気候変動問題、COP27などのグローバル社会の対応、世界各地における若者の抗議運動、脱炭素社会に向て最先端の技術発化等を通して、地球規模の問題と解決に向けたアプローチを理解する	□
第6回	日本の国家的な成長戦略とは何だったのか？　我が国はどうやって第二次大戦の敗戦を生き抜いたのか？　なぜ日本にはユニコーン企業が生まれないのか？	戦後の経済復興、高度経済成長の光と影、バブル経済の崩壊など日本経済の主な歩みを理解し、日本の産業構造の変化と課題を通じて、グローバル時代における我が国の経済政策の在り方を考える	□
第7回	金融資本主義とは何か？　お金が商品となる時代におけるビジネスはどこに向かうのか？　富の格差が拡大する資本主義の根本的な問題を考えよう	プレトンウッズやスミソニアン体制、プラザ合意などの国際的な為替政策が及ぼした金融経済の歴史を通じて、金融資本の動向を理解する。新自由主義への批判視点と修正資本主義の方向性について考察する	□
第8回	イスラム金融とは何か？　キリスト教カルヴァン派はなぜ経済的に成功しているのか？　宗教と経済の関係を考えよう	歴史的なユダヤ人迫害の理由、ディープステートなどの陰謀論、イスラム金融の思想など、宗教や民族と経済の関係を理解し、今後の世界金融を考える	□
第9回	新たな生活様式とは何か？　フーコーのパノプティコンとは何に注目すべきなのか？　コロナ時代のリモート社会は私達に何をもたらすのか？	中世のペスト、100年前のスペイン風邪、近年の新型コロナなど、人類は感染症とどう戦ってきたのか。感染症を契機とする社会の変容、デジタル化によるリモート社会の機会と課題について考察する	□

第10回	ソーシャルメディア依存症とはどういう状態か？　ソーシャル疲れとは何か？　ソーシャルメディアが生む分断とストレスとはどういう問題か？	マスメディア時代とSNS時代の情報流通の根源的違いとは何か。SNS時代の自己認識と現実社会との関係構築について、アテンションエコノミー、共同体理論、コミュニティ分断を通じてその功罪を考察する	□
第11回	なぜ日本は隠れ移民大国と呼ばれるのか？　改正入管法は永住者を増加させるのか？　少子化による労働者不足と増加する移民にどう向き合うべきなのか？	EUの理念と欧州の移民問題の現実、世界の紛争と難民事情、国内産業の外国人労働者依存の状態、入管法の改正内容を理解し、日本の移民政策の現状と問題点を考察する	□
第12回	リニア新幹線は日本に新たな成長をもたらすのか？　自動運転や空飛ぶタクシー、スマートシティは何を目的に開発されるてゆくのか？	リニア中央新幹線、IoTや自動運転の開発現状などを理解し、我が国の社会的改題の解決にむけて、移動手段の変化が及ぼすインパクトや、経済や社会への影響を考察する	□
第13回	人工知能は人間を超えるのか？　なぜメタバースが注目されるのか？　SFと現実の世界はどこまで近くなっているか？	ディープラーニングや、汎用型人工知能（AGI）などの開発、シンギュラリティの予測、AIの兵器活用など、第三次AIブームや、注目される量子コンピュータやメタバースの概要を理解し、人類の未来を考える	□
第14回	なぜ宇宙開発競争が本格化しているのか？　どの国がなにを目指しているのか？　またクローン人間はなぜ許されないのか、不老不死やバイオテクノロジーの機会と課題とは？	各国の宇宙開発の現状、生命工学や遺伝子操作を行うゲノム編集の技術、サイボーグなどの非有機生命工学から人工培養肉まで、宇宙やバイオテクノロジーの現状と未来を予測する	□
第15回	SXSWとは何か？　CESとは何か？	世界の最先端技術の開発状況や、それらがもたらす近未来の社会をいち早く知るために、関心を持つべき見本市やエキシビションとは何か。どうやってPEST分析の精度をあげるのかを考える	□

■授業時間外学習（予習・復習）の内容(Preparation/review details)

毎回のテーマに関して参考文献やインターネット検索等で予習を行う（2時間程度）。講義終了後は、課題の取組を通して、講義資料の見直しや関連知識を自ら補うなど各自で復習し（2時間程度）、テーマに関する理解をさらに深め、自身の考え方を明確化する。

■課題とフィードバックの方法(Assignments/feedback)

毎回LMSを使用して課題の提出を受け付け、フィードバックを行います。提出された課題は、添削や採点を行い戻します。講義時間内での質問に加え、チャットでの質問も受け付けます。また、告知されたオフィスアワーを利用して研究室での面談も可能です。希望者はアポイント要請をしてください。

■授業の到達目標と評価基準(Course goals)

区分(Division)	DP区分(DP division)	内容(DP contents)
知識・技能	**◆ 2021地域ビジネスDP1**	マネージメント、マーケティング、ブランディング、人材育成、財務管理、生産管理、情報管理など、企業経営全般に関する視野を有し、俯瞰的な知識と見識を身に付けている

■成績評価(Evaluation method)

筆記試験(Written exam)	実技試験(Practical exam)	レポート試験(Report exam)	授業内試験（in-class exam)	その他(Other)
			100%	

授業内試験等(具体的内容)(Specific contents)

授業内試験とは出席点ではありません。毎回の課題を期限内に提出しているか、その内容などを総合的に判断して採点します。なお、出席確認は授業への出席だけでなく、課題の提出を持って確認します

■テキスト(Textbooks)

No.(No.)	テキスト名など(Text name)	ISBN(ISBN)
1	テキストはありません。講師が用意します	
2		
3		
4		

5		

■参考図書(references books)		
No.(No.)	テキスト名など(Text name)	ISBN(ISBN)
1	ピーター・ディアマンデス＆スティーブン・コトラー、2030年すべてが「加速」する世界に備えよ	978-4-910063-13-3
2	ジャレド・ダイヤモンド＋ジェイムス・ロビンソン、「歴史は実験できるのか」、慶応義塾大学出版会	978-4-7664-2519-2
3	出口治明、「哲学と宗教全史」、ダイヤモンド社	978-4-478-10187-2
4	マイケル・ピルズベリー、「China 2049」、日経BP社	978-4-8222-5104-8
5	樋口恭介、「未来は予測するものではなく創造するものである」、筑摩書房	978-4-480-86476-5